

ビルシステム



大容量制御盤



大容量永久磁石モータ巻上機



1 分速1,260 mエレベーターの駆動・制御装置(左), 廣州周大福金融中心の外観イメージ(右)

1 世界最高分速1,260 m 超高速エレベーター

2018年竣工予定の中国・広州市の超高層複合ビル、廣州周大福金融中心に納入する定格分速1,200 m (時速72 km) の超高速エレベーターにおいて、2016年5月に走行実証を行い、この時点での世界最高速を達成した。さらに、駆動・制御、安全性、快適性を追求するため、制御装置や安全装置に改良を加えた結果、廣州周大福金融中心での現地速度試験では分速1,260 m (時速75.6 km) を計測し、2017年5月にエレベーターの公的認定機関である国家電梯質量監督検閲中心(広東)から正式な速度認定を受けた。

今回の速度認定で培われた駆動・制御、安全性、快適性を支える技術で、今後もより安心・快適・便利なエレベーターを提供していく。

2 中国およびアジア市場向け エスカレーターTXシリーズ

2016年7月に日本と中国のエスカレーター事業を統合し、両国のリソースを中国・広州に集約して堅調な中国市場およびアジア市場向けに商業施設用エスカレーターTXシリーズを開発し、2017年8月^{※1)}に販売を開始した。

TXシリーズは、これまで搭載してきた安全・安心技術を基に、各国の法規、基準に基づいて開発した。また、利用者の快適さや心地よさを追求し、人の無意識な行動に寄り添うエスカレーターをコンセプトとして機能的なデザインを採用しており、手すりの吸い込み口周辺の部材から凹凸を減らしたシンプルな乗降口としたほか、乗降口の表面には滑りにくい表面を採用した。

さらに、顧客の多様な要望に対応できるよう、いくつかのオプションから柔軟に仕様を選択できる製品とし、梁(はり)間寸法^{※2)}を従来機種^{※3)}に比べて150 mm短縮し、設置面積の省スペース化を実現した。

今後も、多様化するニーズに合わせて製品仕様を拡充していくことにより、中国・アジア市場での受注を拡大していく。

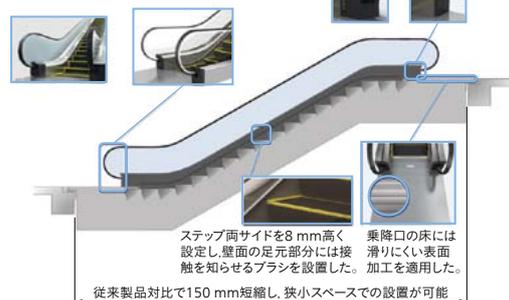
※1) 中国では2017年6月に先行発売。

※2) エスカレーターの両端を取り付ける上階と下階の梁同士の水平距離。

※3) 同型の従来機種SXシリーズとの比較(日立製作所調べ)。



従来、欄干ガラス外縁を覆っていた目立つ形状のフレームを極小化した。照明機器の取り付けスペースも延長し、欄干全周を照らす照明オプションを用意した。

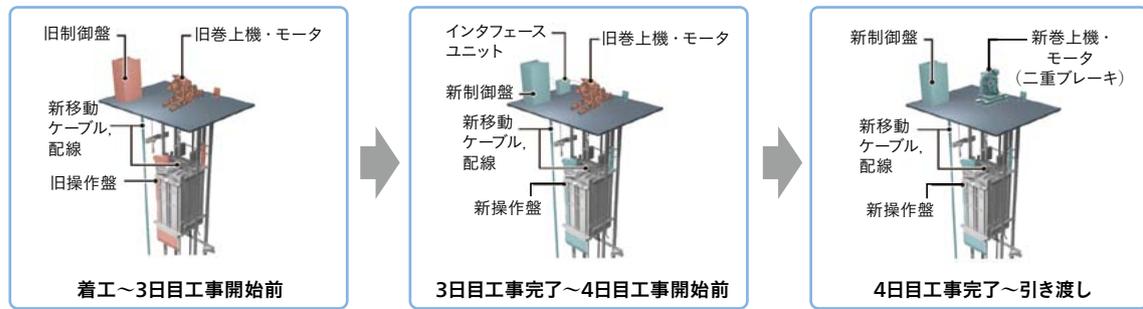


ステップ両サイドを8 mm高く設定し、壁面の足元部分には接触を知らせるブラシを設置した。加工を適用した。

乗降口の床には滑りにくい表面を採用した。

従来製品対比で150 mm短縮し、狭小スペースでの設置が可能。

2 TXシリーズの全体イメージ



3 インタフェースユニットを用いた巻上機と制御盤の交換イメージ

3 エレベーターリニューアル商品 G_Select+U

2012年に発売したエレベーターのリニューアル商品 G_Selectは、ニーズに応じてメニューの中からリニューアル内容を選択できる商品である。このG_Selectを含め、従来よりエレベーターのリニューアル工事は、巻上機と制御盤の入れ替え作業を同時に行うことを前提としており、最短でも5日間の終日連続停止期間が必要となるため、顧客によってはリニューアルの実施が困難であった。

G_Select+Uでは、旧巻上機と新制御盤に互換性を持たせるインタフェースユニットを開発し、これを介することにより、旧巻上機と新制御盤が混在した状態でもエレベーターが稼働できるようになり、巻上機と制御盤を別々の日程で入れ替えできるようになった。これにより、エレベーターの終日連続停止日数がゼロとなり、建物の用途ごとの利用時間帯に配慮したリニューアル工事日程を計画することが可能となった。

発売時点での対象機種は、1986年以降に製造した日立の標準型エレベーターのうち約1万台であるが、今後、この工法の適用機種拡大を進め、エレベーターリニューアルの促進を図っていく。

(株式会社日立ビルシステム)

(発売時期：2017年4月)

4 昇降機メンテナンスサービス ビルケアパック

顧客の多様なニーズに応えるべく、昇降機のメンテナンスサービスを、昇降機の基本性能を維持するための基本サービスと、安心感や快適性を提供する高付加価値サービスの2つに体系化したメンテナンスサービス、ビルケアパックの提供を開始した。

ビルケアパックは、昇降機を24時間365日休みなく監視、診断、点検する基本サービスのヘリオスメンテナンスに加えて、エレベーターの制御の一部やかご内液晶インジケータの表示を顧客自身で設定できるサービスのほか、地震発生後に停止中のエレベーターを仮復旧させるヘリオスドライブや、従来紙片で配付していたメンテナンスレポートをWebサイトで確認できるヘリオスWebなど、より付加価値のあるサービスを選択可能とし、顧客のニーズに柔軟に対応する。

遠隔知的診断システムであるヘリオスを進化させ、保全のIoT (Internet of Things) 化と専門技術者の熟練技能を融合することで、昇降機が故障する前に異常の兆候を検知し対処する予防保全技術の開発に努め、安全と品質を追求していく。

(株式会社日立ビルシステム)

(サービス開始時期：2017年10月)

基本サービス

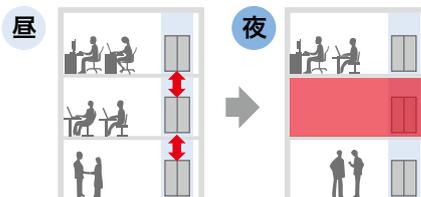
「ヘリオス」が24時間365日、遠隔で監視診断し、昇降機が故障する前の異常の兆候を検知し調整を行うなど、高品質な保全を提供する。



24時間365日昇降機を見守るカスタマーセンター

高付加価値サービス

夜間など、エレベーター利用者の入室を制限する場合、特定階の行先階ボタンを登録できないようにする。



特定階サービス切り離し運転

かご内液晶インジケーターに天気予報やお知らせメッセージなど利用者に役立つ情報を表示する。



天気予報表示

4 ビルケアパックの概要